

2008年4月4日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

主要エステティック関連機器 28品目の国内市場を調査

2008年見込

06年に立ち上がったラジオ波マシン市場は国内でもブレイクし40億円へ（前年比37.9%増）

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、美容・健康などに関する生活者意識の高まりと、社会環境の変化に伴うライフスタイルの多様化・複雑化などから需要が高まるエステティック関連機器の市場を調査した。その結果を報告書「エステティック関連機器市場の現状と将来展望」にまとめた。

エステティック産業は経済産業省が提唱する『新経済成長戦略』の中で、『癒し系』サービスの中心と位置付けられており、発展が期待される。エステティックサロンはここ数年着実に増加しており、またサービスを提供する施設はエステティックサロンだけでなく、ホテルや旅館などの宿泊施設、スーパー銭湯、スポーツクラブ、理美容店などへ広がりを見せている。

エステティックサービスを提供する施設が増加したことにより業務用エステティック関連機器の需要は拡大している。さらにエステティックサロンで提供されるサービスを自宅でも得たいという消費者が増加しており、家庭用エステティック関連機器の需要も拡大している。

<注目機器市場>

1. ラジオ波マシン（業務用）

2007年	2008年見込	前年比
29億円	40億円	137.9%

ラジオ波マシンは電磁波の一種であるラジオ波によって体内のイオン分子を振動させ、分子同士の摩擦により体内深部に発生する“深部温熱”を利用して筋肉の緊張を緩和させ血行を良くし、余剰脂肪の除去などを期待する装置である。ボディ用やフェイス用、又は両部位の施術が出来る機種もあり、本体価格は200万円台から、ハイスペックの機種では1,000万円を超えるものもある。大半は輸入品である。

ラジオ波マシンによる施術は世界的なブームとなっている。国内では06年に販売が開始され市場が立ち上がり、07年には29億円の規模となった。ラジオ波マシンによる痩身は、少ない施術回数で効果が上がり、持続性も高く、部分痩せも可能であることなどからエステティックサロンやフィットネスクラブなどをはじめ急激に需要が拡大している。今後は部分痩せが可能であることからメタボリック対策としてメンズエステ市場での需要が期待される。また、美容外科などで行われる「脂肪吸引」よりも施術を受ける者にとって施術費やそのほかにもメリットがあるため、施術希望者の増加に伴い装置需要は拡大すると予測される。

2. 酸素バー（業務用）

2007年	2008年見込	前年比
16億円	22億円	137.5%

酸素バー（酸素濃縮器）は空気を吸気し高濃度の酸素を排気する装置である。アロマオイル加湿器が一体化したタイプやキャスター付きで可動式タイプなど様々なタイプがある。本来酸素濃縮器は医療用に開発されたが、酸素が細胞の代謝を促進し不純物を排出する働きがあることなどから美容や健康、リラクゼーション施設で導入が進み、スポーツ業界でも多くのアスリートが利用していることもあり認知度が一気に高まった。

市場は酸素ブームを背景に、05年が2.5億円、06年が12億円、07年が16億円と急激に拡大している。トップシェアは最も小型且つ軽量の「エアロ」を市場展開するオーツ-サプライズである。酸素ビジネスのパイオニアであるユニコムがそれに続く。最近ではホテルや旅館、スポーツクラブ、エステサロン、美容室、ネイルサロン、整体院/整骨院、カフェ/漫画喫茶などで需要が高まっていることから今後も順調な市場拡大が期待される。

3. EMSマシン（業務用）

2007年	2008年見込	前年比
7.2億円	9.5億円	131.9%

EMS（Electrical Muscle Stimulation）マシンは体に電氣的な刺激を与えることで筋肉を収縮させ、筋肉強化のトレーニング効果をあげる装置である。家庭用のEMSマシンと違い、チャンネル数が多く（通常出力チャンネル数は4チャンネルが多い）、チャンネル数によっては複数の体の部位や範囲、複数の人が同時に施術することが出来る。10チャンネルを持つ機種や、周波数の異なる波形を不規則に自動出力する機種もある。本体価格も家庭用に比べ高価で、60万円台から400万円台となっている。ラジオ波マシンに比べ周波数が低いため安全性には優れているものの、即効性では劣るため他の装置と併用するユーザーが多い。

07年の市場は7.2億円となった。トップシェアは海外製品が多い中、国産製品「SASUKE」を市場展開するヴァリユゲイツである。

多くの装置はパッドをボディに貼り付ける際ジェルを使用するが、ジェル不要のパッドタイプの装置もあり、施術者の負担軽減やランニングコストの低減が図られている。また搭載機能は、EMS以外に温熱効果や超音波などによるマッサージ効果が得られるなど、多数備えた機種の開発が進められている。今後はメタボ対策としてメンズエステ市場での需要が期待され、ラジオ波マシンとの競合による影響も受けるが、市場は順調に拡大すると見られる。

4. 酸素水サーバー（業務用）

2007年	2008年見込	前年比
4.2億円	4.7億円	111.9%

酸素水サーバーは水道水を直接取り込み、サーバー内でミネラル酸素水を作り出す装置である。水道水や市販の水にも常温で5～7ppm程度の酸素が含まれているが、より高濃度の酸素水を作るための装置で、本体価格は30～40万円台である。酸素は、脂肪分解酵素リパーゼの働きを活性化させるため体脂肪の減少を促すことが出来る。また細胞の新陳代謝を高める効果があるためダイエットや美肌対策になる。

07年の市場は前年比56%増の4.2億円となった。トップシェアは世界特許の酸素充填システムと超小型酸素発生装置を内蔵した「オキシー・サブ」を供給するバイオネットである。酸素が摂取できる酸素水がCVSで販売されているなど、酸素が体に良いというイメージから、エステティックサロンでは顧客サービスとして酸素水サーバーを導入しているところが増えている。その場で高濃度の酸素水ができ、経済的にも優れているため、今後も需要は拡大すると予測される。

5. 家庭用体組成計（家庭用）

2007年	2008年見込	前年比
205億円	220億円	107.3%

体組成計は体を構成する脂肪や筋肉、骨、水分などの組成成分を測る装置で家庭用を対象としている。基礎代謝量や体内年齢、BMI値、女性のホルモンバランス周期、ダイエットに最適な時期を知らせる機能、更には体重を50g単位で測定できる機能などを持つ製品もある。

07年の市場は205億円となった。オムロンヘルスケアとタニタの2大メーカーが市場の大部分を占めている。健康志向の高まりは強く、厚労省が進めるメタボリック症候群に対する予防・改善政策も追い風となり、今まで使っていた体脂肪計からの買い替えや、新規購入により今後も市場は拡大すると予測される。

<調査結果の概要>

業務用機器の市場はフェイス用機器5品目、ボディ用機器10品目、ネイル・フット用機器4品目の合計3分類19品目、家庭用機器の市場はフェイス用機器3品目、ボディ用機器4品目、ネイル・フット用機器2品目の合計3分類9品目を対象としている。

	2007年	2008年見込	前年比
業務用機器 19品目	253億円	282億円	111.5%
家庭用機器 9品目	382億円	400億円	104.7%
合計	635億円	682億円	107.4%

07年のエステティック関連機器市場は、業務用機器の市場が253億円、家庭用機器の市場が382億円となった。市場の伸び率は業務用機器の方が家庭用機器より高いが、市場の規模は品目別で唯一100億円台の家庭用

体組成計（07年：205億円）を含む家庭用の機器が大きい。

業務用機器では、近年の酸素ブームによる酸素バー（酸素濃縮器）や酸素カプセル、世界的なブームとなっているラジオ波マシンが国内でもブレイクしたことで伸び、市場は06年に前年比24%増、07年に12%増となった。08年と09年も共に10%台の拡大が予測される。

家庭用機器では、市場の50%以上を占める家庭用体組成計が健康志向の高まりと、メタボリック症候群の予防や改善の対策需要の増加で好調に伸びており、家庭用機器市場を牽引している。

以上

<調査対象>

<業務用> (19品目)	フェイス用機器 (5品目)	フェイシャルマシン、スチーマー、超音波美顔器、スキンスキャナー、水分チェッカー
	ボディ用機器 (10品目)	サウナシステム、酸素カプセル、酸素バー、酸素水サーバー、リラクゼーションカプセル、ラジオ波(RF)マシン、振動マシン、EMSマシン、体組成計、ゲルマニウム温浴器、
	ネイル・フット用機器 (4品目)	UVランプ、ネイルケアマシン、エアブラシ、フットバス
<家庭用> (9品目)	フェイス用機器 (3品目)	イオンスチーマー、家庭用超音波美顔器、毛穴吸引器
	ボディ用機器 (4品目)	ホームサウナ、家庭用EMSマシン、家庭用体組成計、脱毛器/レディースシェーバー
	ネイル・フット用機器 (2品目)	電動角質除去器、電動爪やすり器

<調査方法>

富士経済専門調査員によるヒアリング調査及び社内データベースを併用

<調査期間>

2007年9月～2008年2月

資料タイトル：「エステティック関連機器市場の現状と将来展望」

体裁：A4判 189頁

価格：100,000円(税込み105,000円)

調査・編集：富士経済 大阪マーケティング本部 本部プロジェクト エステティックプロジェクト
TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030

発行所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>